

元気くんの お米ニュース

県内の学校給食用のお米がBG米に

H.19.5月~

変わりました！

去る6月9日(土)、

鹿児島市内の児童とその

保護者、生産者並びに地元の子供たち、JA その他関係者総勢約100名による田植え交流会が行われました。

薩摩川内市樋脇町藤本集落の田んぼでは、実際に田植えの体験と、午後からは場所を移し、藤本農村公園で地元の生産者の方々による心あたまる手料理の昼食、また お米に関するクイズ大会など、地元の子供たちと鹿児島市内の子供たちは交流を深めました。

クイズ大会のあとは、生産農家の方々や関係者の指導による「バケツ苗の実習」など、子供たちにとって「食」や「農」に関して相互に学習するいい機会に恵まれました。

取材を通して感じたことは、大人も子供も人間は自然の中にいるときが最も心地良く、一番輝いて見える!! と確信をもちました。子供たちの無邪気な声と笑顔が今も頭に浮かびます!!



昔ながらの手植えと機械植え 両方を体験した子供たち!!

昭和30年代まで行われていた、田んぼにヒモを張って、それに添って並び、手植えする方法と、乗用田植機によるもの両方を子供たちは体験しました。

後者では実際に運転も行い、大喜びでした。

子供たちは後々まで楽しい思い出として心に残っていくのでしょうね。



今でも機械が入りにくい山間部の小さな田んぼなど、ごく一部では手植えが行われているそうです。



楽しみ~

藤本地区で田植え交流会開催

この夏 おすすすめスポット 藤本の滝

市比野温泉を過ぎて郡山方面に向かう県道36号線を6kmほど進み左折すると200m先に「滝入口」の看板があります。滝周辺は空気がひんやりしてオゾンを感じられ、「最高!!」二連の滝は見事でした。

バケツ苗(またはバケツ稲)

●バケツの中に田んぼの土と、水を入れ、田んぼと同じ状態にして稲の苗を植えて、これから約5ヶ月間、大切に育てます。田んぼの稲と同じように雑草取りや水の管理などを行い、観察を続け、子供たちは米づくりを身近に体験し、学習することができます。

秋の稲刈りが楽しみです!



お米物語

そと鹿児島農協財部支所の
石蔵倉庫は2007年3月に
登録有形文化財に答申!!

財部町北俣地区の巻

末平活行さんを訪ねて

水のきれいな山間地域の おいしいお米

出入口両脇の壁に特徴あり!!
きちんと積み重ねた石壁に歴史の重みが感じられます。

霧が多くて水のきれいなこの地域はヒノヒカリを作るのに適した気候で、おいしいお米が穫れますよ。」と

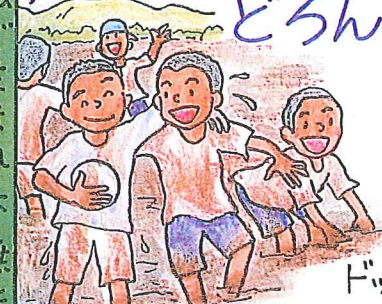
おっしゃる末平さんは都会から故郷に帰られて13年、お米づくりと運送業を営まれる兼業農家で、お米の他にも畑では、うきょう、甘藷、里芋、生姜などを作っているそうです。



米づくりは害虫と雑草との戦いです。

また、米以外の田んぼの利用法も、これからの課題ですね。養蜂業者に依頼されて、レンゲ草を植えている田んぼも結構ありますよ。

水田でのスポーツ どろんこ大会



場所は財部温泉健康センター隣の田んぼで開催!!

ドッジボールやミニバレー、どろんこフラッグなど、大人も子供も参加できる楽しい大会です。そもそもこの「どろんこ大会」は、水田でのスポーツを通して、水と土とのふれあいの機会拡充と仲間づくり、さらには心身共に健全な人づくりと明るい地域、職場づくりを図る目的で考案されたものですが、なんと、その大会の田んぼが財部温泉健康センターの隣地!! スポーツのあとはゆっくり温泉につかり、汗を流せるなんて、楽しさ増倍です!

来年はぜひ足を運んでみたいですね。皆さんもいかがですか? ミニバレーは市外参加もOKだそうですよ。

去る5/20日に開催されました!!

後継者問題は大丈夫!

息子さんがいらっしゃるの心配ないとのこと。
(よかったです! 安心、安心!!)



お会いしてはじめての想像で〜。

たんど係って何?

末平さんに聞きました!

お米を生産される方々にとって田んぼは大切なもの。そして、そこに育つ稲には、きれいな水が必要です。水は田んぼの中に水路を通して入ってきます。その水路を守り、清掃、管理する人たちは、昔から「たんど係」の名称で呼ばれてきました。今年のどろんこ大会でもたんど係の方々が協力されて、お祭りが行われたそうです。

